

2007年ノーベル平和賞受章 パチャウリーさんをお迎えして



3月13日（火）、本学の見上学長のご縁（日本ユネスコ協会）で2007年にノーベル平和賞を受章したラージェンドラ・クマール・パチャウリーさんが来校されました。パチャウリーさんは環境エネルギー問題の専門家で、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の議長を2002年から2015年までの2期13年務められ、2007年にはゴア元米国副大統領と共にIPCCがノーベル平和賞を受賞されました。

前日、ヨーロッパからインドのニューデリー空港経由で成田着、そして仙台空港から仙台市内へという非常にタイトなスケジュールとお伺いしましたが、長旅の疲れを感じさせるご様子もなく、笑顔でお会いすることができました。

午前は小学校の校舎内を見学され、5年生の教室では中に入って気さくに子どもたちとコミュニケーションをとっていただきました。また、5年生廊下の総合的な学習で調べているキリバス共和国の温暖化による影響の資料にも関心を示され、熱心に通訳の市瀬先生に説明を求められていました。

(※余談ですが、パチャウリーさんはベジタリアンのため、昼食をご一緒した私たちも昼食は野菜中心のお弁当をいただきました。)



午後からは会場を附属中学校の体育館に移しての小中の合同講演会。昔を知っている私でも小学生と中学生と一緒に話を聞くような機会は今まで一度もなかったと思います。今回の講演会が実現した背景には、パチャウリーさんが気候変動による影響について「若い世代の人たちに知ってもらいたい、深刻に考えて欲しい」という強い希望もありました。

講演は「Human are changing the climate (人間が気候を変えている)」という話からスタートし、1950年頃から世界の平均気温が上がっていること、平均海水面の変化、温室効果ガスの影響などについて豊富なデータとともにとても分かりやすくお話して頂きました。

パチャウリーさんは、気候変動の影響は現在進行形であることから、私たちの生活と行動を変えることの大切さ、そして行動の余地が少なくなっている現在だからこそ国を超えてこの問題に取り組んでいくことの大切さについてお話されました。

印象的だったのは講演の後半、パチャウリーさんの祖国インド独立の父マハトマ・ガンジーの言葉「抑えつけられた真実によって火が付けられる。使命に基づく確信によって歴史を変えることができる」という言葉を紹介していただいたことです。1時間30分の英語（通訳有り）での講演は、附属で学ぶ私たち全てのものにとって貴重な体験、そして、未来へと持続可能な学びの時間となりました。

(文責：副校長 手代木)

